

別記様式

		担当課	総合政策課	
会議の名称	令和6年度第1回鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会			
開催日	令和6年11月27日(水)			
開催時間	午前10時00分～午前11時45分			
開催場所	鴻巣市役所本庁舎4階 大会議室			
議長(委員長・会長)氏名	なし			
出席者(委員)氏名 (出席者数)	河野 廣 永井 孝 小林 美鈴	直井 利充 小澤 康人 堀口 剛	橋本 浩 岡崎 雅行 坂田 直人	鈴木 将浩 伊藤 恵  計11名
欠席者(委員)氏名 (欠席者数)	山本 明伸 佐藤 百合子			計2名
事務局職員職氏名	市長政策室長 総合政策課長 総合政策課主任	藤崎 秀也 富田 真久 大島 悠志	市長政策室副室長 総合政策課主幹	小川 裕子 新井 哲弘
傍聴の可否 (傍聴者数)	可(0名)			
会議の内容	<p>1 開会 2 あいさつ 3 委員紹介(自己紹介) 4 議題 (1) 第2期鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要と本市を取り巻く状況 (2) 総合戦略に基づく取組と目標値について 5 その他 6 閉会</p> <p>【次第4 議事】 (1) 第2期鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要と本市を取り巻く状況について、事務局から説明し、委員から質問をいただいた。 ・SDGs未来会議の次年度以降の予定は。 →本会議については、市制施行70周年の記念事業として位置付けて実施したものであり、次年度以降実施する予定はない。 ・市民アンケートの回答率は、半分以下の回答率だが統計的にどのように考えるか。 →例年4割台の回答率であり、統計的に問題はない回答数と考えるが、回答率の向上に向けて電子申請も開始している。</p> <p>(2)総合戦略に基づく取組と目標値について、事務局から説明し、委員から質問・意見をいただいた。 ● 基本目標① 結婚・出産・子育てをしたいと思いますまちづくり ・30代の未婚率が年々増加していることについて、出生率にも影響することであるが、こうした課題に対する施策はどのようなものがあるか。 →結婚による経済的不安を解消するため、結婚新生活支援補助金として最大60</p>			

万円の補助をしている。また、マッチングシステムや出会いの場を提供する埼玉県「出会いサポートセンター」の会員に鴻巣市としてなっており、鴻巣市民が安い会費での登録を可能としている。

・学校、家庭、地域が連携していると思う保護者の割合について、令和5年度は落ち込んでしまったが、小学3年生のスーパーの見学や中学2年生の社会体験チャレンジなど、多くの事業所の協力のもとキャリア教育を実施できており、これらの取組が成果に表れているため、今後も協力いただきたい。

・児童虐待の相談件数について、改定後の目標値を増加させている理由は。

→本指標に限っては上がった方がいいという評価はしておらず、サポートを充実させることで、件数は増えていくものであるが、そういった事象が起こらないことが理想であるため、実情に合わせて数値を設定している。

・児童センターの利用者数は令和5年度に大きく増加しており、令和8年度の14万人という目標値は、コロナ前の状況に戻ったという認識でよいか。

→平成30年で13万2000人となっており、コロナ前に戻りつつある状況と基金等を活用した遊具の充実を図ることで実現を目指すこととしている。

・計画の改定後の目標値の設定の考え方は。

→基本的には、令和8年度までの総合振興計画後期基本計画で定めている目標値を総合戦略の目標値として設定している。ただし、令和5年度の実績で既に達成にしている指標については、総合振興計画とは異なる目標値を設定している。なお、令和8年度の総合振興計画の目標値は、審議会等で審議していただき設定したものであり、それぞれ根拠を持ったものである。

・現在、小中学校に行き子どもたちの声を聞いているが、鴻巣のいいところ・好きなところとして、鴻巣駅の東口の再開発について、ショッピングモールもあり映画館もあり都会に来ているような感覚もある一方で、川里や吹上は自然があつてそれが大好きだと言っている。また、駅前からのフラワーロードや花時計など、花に関する意見も多く、これまで鴻巣が力を入れて取り組んできたことが子どもたちに響いていると感じている。鴻巣を好きだという子どもたちが多く、都会に行き疲れて帰ってきてほっとするという声もあり、テレワークができる環境にある方は鴻巣が良くて東京から移住してくる方もおり、これらの特長を共有して伸ばしていき、その上で鴻巣の未来をどうしていくかということ計画に反映できるといい。

・鴻巣市が子育てしやすいと思う保護者の割合について、令和5年度は63%まで落ち込んでおり、他の子育て関連の指標はそこまで悪くない中で、どういったことが要因となっているか。

→市民アンケートにおける子育てしやすいと思わない方の理由として、最も多いのが経済的な支援が少ない、次に子どもが安全に遊べる身近な施設が少ないということで、ともに6割程度となっている。

・幼稚園の保護者からも公園等の遊び場に関する要望の声は上がっており、そういった施設の充実させることがこの指標の向上につながると考える。

#### ● 基本目標② 住みたい、住んでよかったと思えるまちづくり

・駅前のマンション建設に伴い人口増が予想されるということですが、吹上地域の大芦小学校は吹上団地が建ち数年経った時が最大人数で1,034人いたが、2年前は110人とピーク時の10分の1になったことで閉校が議論されている。団地やマンションによる人口増は、次世代がおらず、一時的ものであるため、長い目で見ると学校がなくなってしまう。東京から引っ越してくる方

の中には少人数で面倒を見てもらえそうな学校があるから引っ越してきたものの、ゆくゆくは閉校してしまうといったケースも考えられるため、この一時的な人口増ということに対しては、長いスパンで考えることが重要である。

- ・花を育てる、飾るなど、花が身近にある生活を送る市民の割合について、数値的にはいいが、花生産者からはもっと市民の方が花を贈ったりしてくれたら良いという意見をもらっている。
- 市としても、現在実施している花のある都市空間の創出や新婚世帯・転入世帯に2,000円相当の花の引換券を配布など、市の特産品である花のPRを引き続き行っていく。
- ・鴻巣市は他市と比較して、空き家に対してしっかり対策を講じているという認識を持っているが、市として、空き家に対してどのような課題を持っているか。
- 毎年市内10地区で実施する地域懇談会でも空き家が話題に上がることが多く、屋根が崩れそうで危険だといった声をいただく。  
市として、そのような意見をいただいたときに、家の所有者に改善を促す通知を送ったり、空き家を解体するときの補助金を交付したり、空き家バンクを活用するなどの対策を講じている。  
また、現在、水道の閉栓情報をもとに空き家の全件調査を行っている。空き家については、それ自体の問題というよりも、管理不全の空き家が問題であり、その多くは相続がうまくいっていない状況であるため、行政書士・司法書士や埼玉県空き家相談窓口を紹介するなどの対応をしている。先日、問題のある空き家の相続が成立し、現在駐車場が整備されたが、空き家は市民生活に大きな影響を与えるため、適切に対応していく。
- ・空き家は住みやすいまちやコンパクトシティの形成といったことに関する問題であるため、地域金融機関としてもしっかり貢献していく。

● 基本目標③ 人口構造の変化に対応した健康で安全・安心な地域づくり

- ・自治会活動に参加したいと思う市民の割合について、自治会に加入していると役が回ってきたりすることが参加したくない要因となっているか。
- 地域懇談会でも多く取り上げられる自治会の加入率の低下といった課題については、若い世代が会費を払う上にイベント等の手伝いをするなど、自治会に加入するメリットが感じられないという意見が多い。
- ・会費を集めたり広報を配布したりすることが班長になると大変という意見が多く、自治会こそDXが必要と考えている。
- ・どのような犯罪が市内では多いか。
- 今年の1月から7月までの実績は、刑法犯認知総数が423件と前年より86件増加している。その内訳として、侵入窃盗が38件、振り込め詐欺が6件、主な街頭犯罪として134件、その内訳の中で一番多いのが自転車盗で91件となっている。市では、昨年度から各家庭での防犯カメラ設置などの防犯対策に対する補助金を開始した。
- ・コミュニティバスや路線バスについて、ルート変更等のこれからの方向性について。
- 交通関係者で構成する地域公共交通会議にて、5年に1度ルートの見直しを行っており、令和6年度に見直しを行ったため、基本的には今後5年間は同じルートで運行する。民間路線バスについては、廃止したいという声をいた

	<p>だくことがあるが、市にとっては維持していただきたいということで、継続している路線もある。交通については、効率化と市民の利便性をどう両立させていくかが今後の課題である。</p> <p>● 基本目標④ まちのにぎわいと活力をもたらす産業基盤の充実したまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ジョブサポートこうのすにおける就職者数について、実績値の取り方をジョブサポートこうのすを利用して鴻巣市内に就職した人数のみではなく、他市に就職した人数も含めて算出した方がいいと考える。</li> <li>・ 耕作放棄地について、多くの若い人に農業の就労につながるような体験できる支援が必要と感じている。</li> </ul> <p>→令和7年1月から開始予定のSDGsポイント制度も活用しながら体験の機会を提供したいと考えている。また、鴻巣市は県内でも5本の指に入る経営耕地面積といった状況で、日本の農業は大規模化と担い手を集約していくというのがトレンドになっているが、地域の方々に農業を身近に感じてもらうということで、現在、熊谷バイパス沿いに整備を進めている道の駅の農産物直売所において、地域の農業に親しみながらそれを消費者の方々と繋がる仕組みを構築することで本市の農家の育成に力を入れていきたい。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">配布資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第</li> <li>・ 令和6年度 第1回鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会出席者</li> <li>・ 令和6年度 第1回鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会座席表</li> <li>・ 令和6年度 第1回まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会レジュメ</li> <li>・ 総合戦略に基づく取組と目標値について</li> <li>・ 第2期鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略 改定案</li> </ul>